

④7 東京国際クルーズターミナル整備事業

受賞機関 東京都 港湾局 港湾整備部
東京都 港湾局 東京港建設事務所

キーワード 大屋根、人工地盤上、構造評定、ボーディングブリッジ

全建賞審査委員会の評価ポイント

世界最大級のクルーズ客船が入港可能な東京国際クルーズターミナルの整備。海上に構築した人工地盤上の建築であり、構造上の難度が高いにも関わらず、波や船の帆をイメージした大スパンの魅力的な施設の整備を実現している点が評価された。

1. はじめに

東京都港湾局は、第8次改訂港湾計画（平成26年策定）に基づき、世界から人が訪れる国際観光港湾として、大型クルーズ客船が着岸可能な新客船ふ頭の整備に取り組んできた。

新たな「首都の玄関口」として、東京臨海副都心地域に世界最大級のクルーズ客船が利用できる東京国際クルーズターミナルを整備し、令和2年9月にオープンしたところである。

2. 事業の概要

「首都の玄関口」として位置付けた新たな客船ふ頭の主要施設であるターミナルビルは、鉄骨造4階建て、延べ面積19,114.52㎡で、都道482号線から歩道を明確に分離した動線でアクセスできる。建物回りには、一般車や大型バスの駐車場、タクシー乗場を配置している。ターミナルビルの外観は、「海の波」「船の帆」、日本の伝統的な「屋根のそり」をイメージした大屋根が特徴で、東京港の新たなランドマークとなっている。



「屋根のそり」をイメージした大屋根が特徴の外観

3. 事業の成果

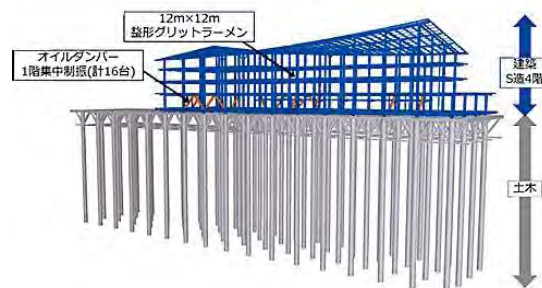
ターミナルビルのプランでは、1階にエントランスとバス乗降場等、2・3階にCIQの検査場とロビー、4階に送迎エリアを配置している。ターミナルビル内観は、2階から4階につながる吹抜けがあり、3階は高い天井により開放的な大空間を実現している。

大小さまざまな大きさの客船へ対応するために、屋内スペースを間仕切りのない大空間とし、あらゆるレイアウトに対応できるように計画した。

構造上の特徴として、海上に構築した人工地盤の上にターミナルビルを建設する類を見ない計画であり、土木構造物と建築の構造が一体となる特殊な構造形式として、国土交通大臣の認定（構造評定）を取得している。

また、船に乗降するための通路として、ボーディングブリッジを整備した。利用者はターミナルから屋外に出ることなく、手荷物を持ったまま快適に短時間で船の乗降ができる。上下可動可能とすることで、客船の大きさに合わせた自由度の高いものとしている。

- 1.国内で類を見ない「建築-土木一体の構造物」→構造大臣認定取得
- 2.土木施工誤差吸収・確実な応力伝達を可能とする「ソケット剛接合部」
- 3.土木シャケットとの剛性差を利用した「1階集中剛接合構造」



建築・土木一体の構造物

4. おわりに

東京港は、羽田空港や東京駅など、交通の拠点に近接し、交通アクセスが充実している。また、都心に近く、都内の観光やショッピングに便利であるばかりでなく、都外の観光地にも日帰りが可能である。

東京都では、こうした強みを背景とし、乗船客のみならず、多くの人々が集いにぎわう拠点として、本整備を進めてきた。「首都の玄関口」に相応しい施設として、今後、多くの人々に利用されることを期待している。

賛助会員 五洋建設(株)、東亜建設工業(株)